

医療法人

ペガサス

明日への指針



Pegasus

そして未来へ。

ペガサスの職員は、地域医療、
そして地域社会の向上に従事する者としての自覚を持ち、
常に未来を見つめて、
理想の地域医療、理想の地域社会、
そして理想のペガサスの実現をめざさなければなりません。

医療の未来

果たして医療の未来は、どうなっていくのでしょうか？
しかし、たとえ医療のカタチがどのように変わろうとも、医療人に与えられた使命は変わりません。
人の生命を救い、病を治すこと。この原点をしっかりと守りながら、
私たちは最新の医療情報、最先端の医療技術に触れ、
医療の未来を見つめ続けていきたいと思えます。

地域の未来

高齢化に伴って、人々が長い人生を、健康で楽しく、生き生きと送るために、
これからの医療、病院は何ができるのでしょうか？
さまざまな病気の恐怖から開放され、つねに安定して、
希望する医療サービスを受けることができ、
また健康を維持するための適切かつわかりやすい情報とサービスを受け続けることのできる、
そんな地域社会を築くために、できる限りのことをしていきたいと思えます。

ペガサスの未来

ペガサスの未来は、大きな可能性に満ちている、と思えます。
これまでの間、私たちは一步一步、丁寧に時間をかけて改革を続けてきました。
しかし改革に終わりはありません。
改革の成果に甘んじることなく、
より広い視野で私たちはペガサスの未来を追求していきます。

2 >>

「あなた」に求められる 能力と努力。

最後に、ペガサスの職員として、これだけはどうしても身に付けていただきたいと思う能力を示しておきます。

専門職としての 能力

一つには、言うまでもなく、専門職としての知識と技術力です。つねに最新の情報を取り入れつつ、いっそうの研鑽を重ね、知識と技術力の向上を図っていただきたいと思います。また、この知識と技術力を一病院のためだけではなく、地域医療の質の向上に役立てることができるよう努力していただくことも大切だと思います。

CSの実践能力

そしてもう一つ欠かせないのは、“CS=カスタマー・サティスファクション”を日々の業務の中で実践していく能力です。カスタマーである患者さま、地域住民、診療所の先生、そして保険者に満足を提供することはもちろん、自治体や行政機関との信頼関係を築くことも、この“CS”の精神が必要でしょう。

ともすれば、専門職としての知識と技術の習得に専念するあまり、CSを見落としがちですが、この両方の能力をバランスよく兼ね備えた人材こそが、私たちペガサスの求める理想の人材です。

2 >>

「あなた」に求められる 能力と努力。

最後に、ペガサスの職員として、これだけはどうしても身に付けていただきたいと思う能力を示しておきます。

専門職としての 能力

一つには、言うまでもなく、専門職としての知識と技術力です。つねに最新の情報を取り入れつつ、いっそうの研鑽を重ね、知識と技術力の向上を図っていただきたいと思います。また、この知識と技術力を一病院のためだけではなく、地域医療の質の向上に役立てることができるよう努力していただくことも大切だと思います。

CSの実践能力

そしてもう一つ欠かせないのは、“CS=カスタマー・サティスファクション”を日々の業務の中で実践していく能力です。カスタマーである患者さま、地域住民、診療所の先生、そして保険者に満足を提供することはもちろん、自治体や行政機関との信頼関係を築くことも、この“CS”の精神が必要でしょう。

ともすれば、専門職としての知識と技術の習得に専念するあまり、CSを見落としがちですが、この両方の能力をバランスよく兼ね備えた人材こそが、私たちペガサスの求める理想の人材です。

患者さま

患者さまを満足させる、そのために必要なは言うまでもなく「高度な医療」です。しかし、診療領域の細分化、高度化、あるいは病院の再編、機能分化の進むなかで、ただ良い医療を提供するだけでは、本当の意味での顧客満足にはつながらない、という時代になってきました。例えば、治療におけるインフォームドコンセントを徹底し、患者さまの理解と納得そして同意に基づく診療活動の実施、効率的な医療のための標準化により、医療の質を高いレベルに保つなど、患者さまの視点で満足の行く医療を提供するという前提が必要です。

地域住民

地域完結型医療 = ヘルスケアシステムが構築されようとする今、その核となって、地域全体の医療を支え、医療と人々、医療機関と医療機関とのコーディネーターをめざすペガサスにおいては、単に自分の目の前の患者さまだけを見つめていれば良い、というものではありません。地域住民すべてのヘルスケアに関わることをしっかりと見定め、健康で安心な生活を考え続ける、その姿勢と行動が必要になります。

地域診療所の先生

診療所の医師と良好な信頼関係を結び、紹介患者を増やすことは、単に収益確保だけではなく、新しい医療の枠組みにおいて重要な要素である医療の連続性の確保という意味でもとても大切なことです。このため、診療所の先生からときには教えを請い、また共に最新の医療について学び、ペガサスグループの医療設備機器、病床を共同利用し、より良い関係を築くことが必要です。

保険者

私たちは、社会保険診療報酬支払基金、国民健康保険団体連合会等へレセプトを提出し診療報酬の支払いを受けます。場合によっては、減点され、請求どおりの診療報酬は支払われない場合があります。私たちはレセプトの提出とその支払いを通じて、私たちが本当に正しい医療を行ったか、医療機関として適切なサービスを行ったかについて保険者から厳しく問われていると考えたいものです。

1

>>

忘れてはならない カスタマー・ サティスファクション。

医療は、治療や検査、そして看護という「目に見えない価値」、つまり「サービス」を提供するものです。

従って、「目に見えない価値」、

換言すれば「医療の質の保証」への取り組みこそが、ペガサスの神髄と考えます。

その一方で、サービスを提供する=サービス業である以上、

私たちは「カスタマー・サティスファクション」(CS=顧客満足)

という言葉をお忘れてはなりません。

私たちの医療理念『ペガサスの約束』に示した

「すべての真ん中にいるのは患者さまです」という思い、

「すべてを支えているのは、人と、町とのきずなです」という姿勢、

それらを言葉だけではなく、体現してこそ、

顧客の心を動かすことができるものと考えます。

すべての第一義に、顧客の満足を置くということ。

常に顧客の側に立ち、顧客を優先すること。

その持続的な取り組みが、顧客の満足の向上に繋がります。

私たちの経営理念

■シンボルマーク

患者さまと地域社会、それを支えるペガサス=Pの強固なつながりを、若々しい双葉で表現。ペガサスがめざすところに芽が伸びゆくさま、ペガサスの豊かな将来性をイメージしています。



■コーポレートスローガン

医療法人として未来を見据えた姿勢と、患者さまに対して前向きに（明るく元気よく）接するサービスの姿勢をアピールしています。

まなざし、明日へ。

「あなた」と一緒に、 築きたい未来があります。

「正しい医療を提供したい」

ただこの一点をすべての根幹において、
ペガサスはこれまで歩み続けてきました。

それは言い換えると、医療を見つめ、社会を見つめた
全職員の、それぞれの日々の蓄積でもあります。

そうした私たちの歩みは、日本の医療構造の変革という時代とともにあります。
この変革は、新たな医療システム構築を目的としたものであり、
今なおその完成に向けて、いわば大詰めの調整が続けられています。

私たちペガサスは、いつのときも、

それがたとえ医療界における激動の時代であっても、

めざす医療を実現するために、

確実に、そしてしなやかに、歩み続けていかななくてはなりません。

それが、私たちばかりでなく、地域社会の未来へと繋がります。

「あなた」もペガサスの一員として、

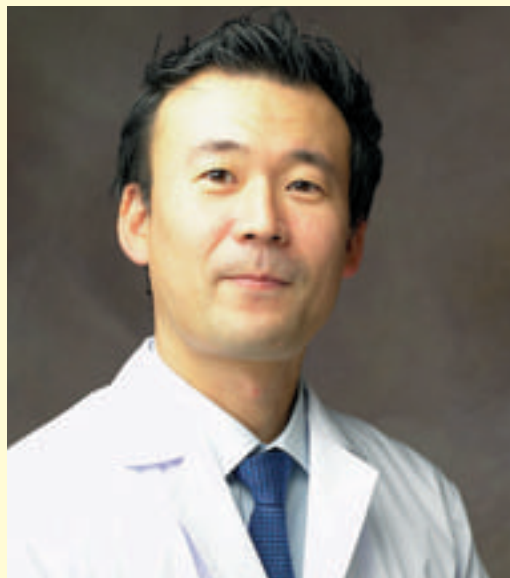
医療の流れ、社会の動き、時代の変化を、

共に見つめ、共に考え、共に行動して行きましょう。

ペガサスの可能性は、職員一人ひとりの可能性の総和です。

「あなた」の自覚によるたゆまぬ努力が、

大きく発揮されることを心から期待しています。



医療法人ペガサス
理事長

馬場武彦

これまでの病院経営と、ペガサスの病院経営

これまでの病院経営	病院における経営の基本 収益構造の変化	ペガサスの病院経営
外来患者の獲得競争 =病院と診療所の患者獲得合戦 通院治療の長期化	収入確保 外来	病診連携に基づく紹介の強化 病病連携に基づく紹介の強化 ——領域外での連携 救命救急体制の強化 病診連携に基づく逆紹介の強化
入院の長期化・病床の満床化	入院	平均在院日数の短縮 ——入退院計画の確立 ——後送病院・施設との連携推進 ——在宅支援体制の強化
検査差益・薬価差益の確保	差益	医療の質の確保 入院治療の高度な標準化
諸経費削減	経費削減 経費	職員教育の充実 リスク管理体制の確立
人件費削減	人件費	適切な人材の確保

ペガサスと地域の 「核」として。

救急医療と急性期医療。

馬場記念病院は誕生以来、その高度化に邁進してきました。

この地域の医療の最後の砦として、職員が一丸となって取り組んだこれまでの年月は、地域において、ペガサスの存在を明確に刻み込んできました。

もちろん、これからもさらなる追求を重ねます。

地域完結型医療に おいて私たちの理想を 実現するために。

ペガサスがめざすものと新しい地域医療の枠組みの変化、その結節点にあるのが馬場記念病院です。馬場記念病院が、地域完結型医療の核となり、地域医療全体の高度化への貢献を果たすことが、ペガサス全体に対する地域からの信頼をより強固にし、私たちの理想を完成させる推進力となります。

真に高度な急性期医療を 提供できる証。

総合的な医療ネットワークで、その中心となるのは急性期病院です。急性期病院といっても、「地域医療支援病院」や「急性期特定病院」、また「臨床研修指定病院」など、高い施設基準で要件を満たした病院を指します。なかでも「地域医療支援病院」や「急性期特定病院」は、地域医療ネットワークに原則一つあれば良いとされています。

この二つの認定を、馬場記念病院は平成15年に有しました。また平成10年には「開放型病院」も取得しています。これらの病院に求められているのは、自院の医療の質の高度化を図り、その地域で最も高度な急性期医療を提供する能力、また、病診連

携、病病連携を強力に押し進め、医療機関同士をコーディネートし、医療の質の連続性を担保する能力。つまりは、真に地域の中核となって診療所や他の病院をリードし、地域全体での効率的な医療提供の推進や、地域医療向上への貢献を果たすことです。

馬場記念病院は、三つの認定取得を、すべてペガサスの理想を実現するための通過点として捉えています。これまでペガサスの核として蓄積したすべてを、地域医療の核として発揮し、ペガサス・トータル・ヘルスケアシステムと地域における総合的な医療ネットワークに向けて、さらなる歩みを続けます。

「正しい医療」を 提供し続けるために。

めざす医療を実現するためには、病院は常に施設・設備・人材など、あらゆる面での適正な再投資を行わなければなりません。それを可能にするには、利益の確保が必要であり、その努力を行ってこそ、地域に正しい医療を提供することができます。馬場記念病院では、収入確保と経費節減に努め、正当な利益追求に力を注いでいます。

救急では、何より365日24時間、救急患者さまの完全受け入れが柱となります。そのためには、平均在院日数の短縮や、病床の回転率向上を図

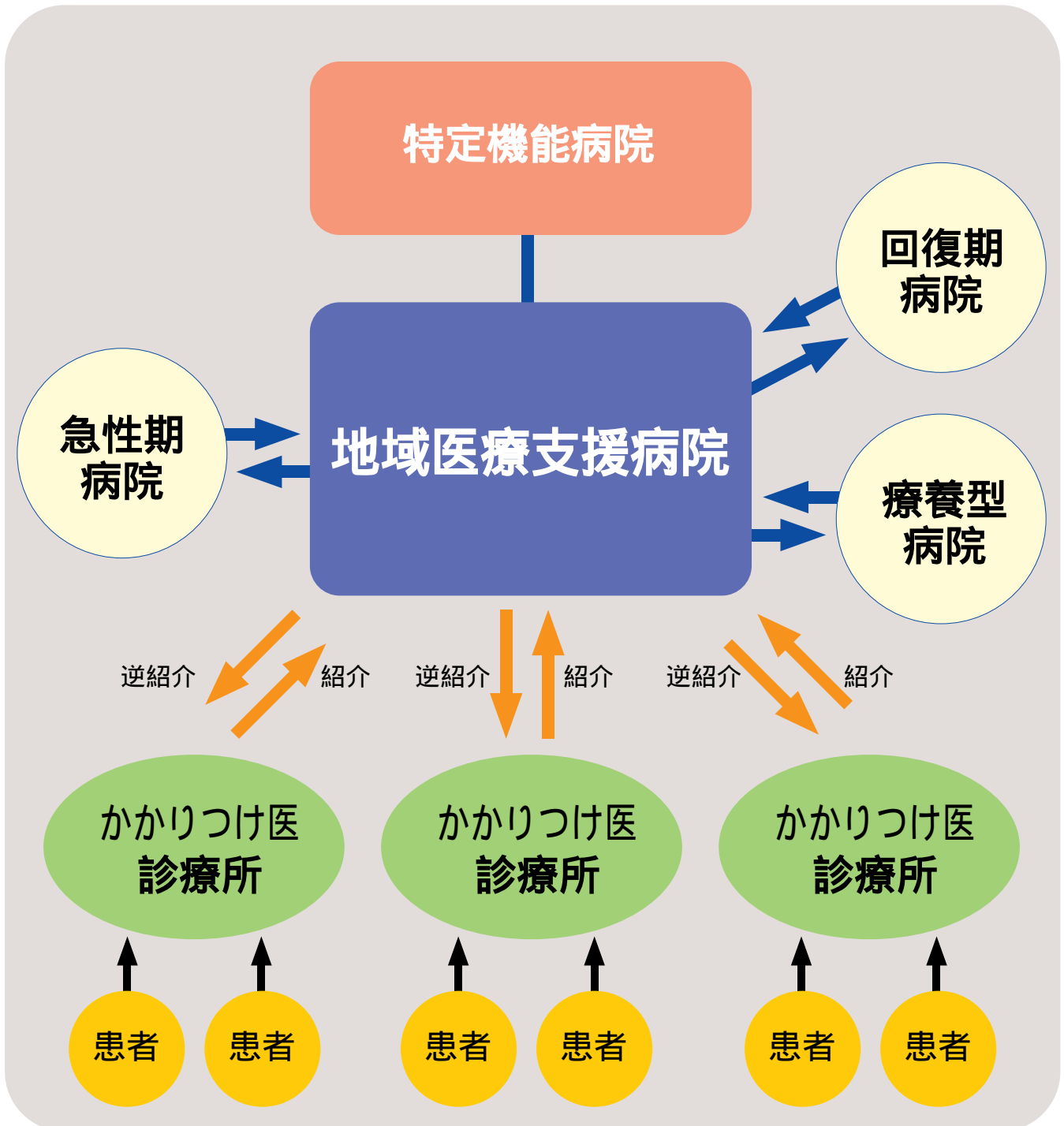
り、満床を理由に受け入れをお断りすることの無い体制づくりを、さらに徹底することが大切です。

外来では、病診連携と病病連携の強化が大きな柱となります。前者では紹介患者の増加。そこでは病院から患者さまに診療所を紹介するという、逆紹介も含まれます。また後者では、専門分野外での連携。これは基本的には急性期病院同士のことであり、その意味では診療圏拡大という可能性も有します。

入院では、治療において高度なレベルでの標準化を図り、効率性を追求することが求められます。それが平均在院日数の短縮にも繋がることは、いうまでもありません。また短期入院治療＝デイサージェリーの強化も必要となります。さらには病病連携を進め、退院・転院体制の整備も大きな要素となります。

正しい医療を提供し続けるための環境づくりとして、患者さまや地域住民、そして地域医療機関、医療・保健・福祉事業従事者に対する、情報公開と教育活動への取り組みが必要と考えます。今日の医療の枠組みの変化、各領域での医療機関の内容、また、疾病と治療、セルフケア等々、そうしたものへの正しい理解と認識の促進、それに基づく行動を呼び起こすことで、病院機能の円滑化へと結びつけます。

新しい地域医療ネットワーク



ペガサスを取り巻く環境

医療の枠組みが 変わりつつあります。

日本の医療は、10年以上の年月をかけて変革が進められてきました。

それは従来の医療の概念を覆し、構造を抜本的に変革する

新たな医療システム構築のための年月でした。

こうした時代の変遷を、ペガサスはしっかりと見つめています。

今までも、そしてこれからも。

新たな 医療供給体制は、 地域完結型。

日本の医療構造の変革は、ひとこと
で言うと、地域医療における「地域
完結型医療」の構築です。すなわち、
これまで個々の医療機関が自己完結
型の医療を提供してきた形を、プ
ライマリーケアから終末期医療まで、
地域の医療機関がそれぞれ機能と役
割を分担し、その連携によって医療
を提供する形に変えるというもの。
それは、総合的な医療ネットワーク
を、一つの地域（30万～50万都市圏
を目安としています）ごとに創り上
げることを意味しています。

医療提供の枠組みと、 病診連携・病病連携。

総合的な医療ネットワークにおいて
は、患者さまは、自宅近くにかかり
つけ医としての診療所を持ち、日常
的な健康管理や体調の管理を委ねま
す。ここで、より専門的な診断・検
査・治療が必要と判断された場合、
急性期病院へと「紹介」されること
になります。これが「病診連携」です。
「病診連携」の根幹には、外来は診療
所で、入院は病院でという考えがあ
ります。すなわち急性期病院は、従

来のように自院の外来で患者さまを
集めるのではなく、あくまでも診療
所からの紹介患者さまの入院治療に
特化するというもの。（患者さまのな
かで見つけ医を持たない方には、
急性期病院から診療所を逆紹介する
ケースも必要になります）

「紹介」を受けた急性期病院では、高
い専門性と技術力を発揮して患者さ
まの治療に当たります。そして急性
期を脱した患者さまは、急性期病院
からの紹介を通して、それぞれの症
状に応じ回復期リハビリテーション
病院、または療養型病院と移行し、
社会復帰をめざすこととなります。
また、専門外の診療科においては、
そこに特化した病院との連携も生じ
ます。これらが「病病連携」です。

必要なのは、効率性、 標準化、そして連続性。

地域における医療システムが変革さ
れた背景には、すでに突入した高齢
社会への対応と、増大する医療費の
抑制があります。要は、これからの
社会が必要とする医療を、いかに効
率的に提供するか。これを実現する
ために、診療報酬をはじめ諸制度の
改定も行われています。

効率性の高い医療提供においては、
標準化が必要となります。これは、
疾病ごとに詳細な「入院計画書（＝

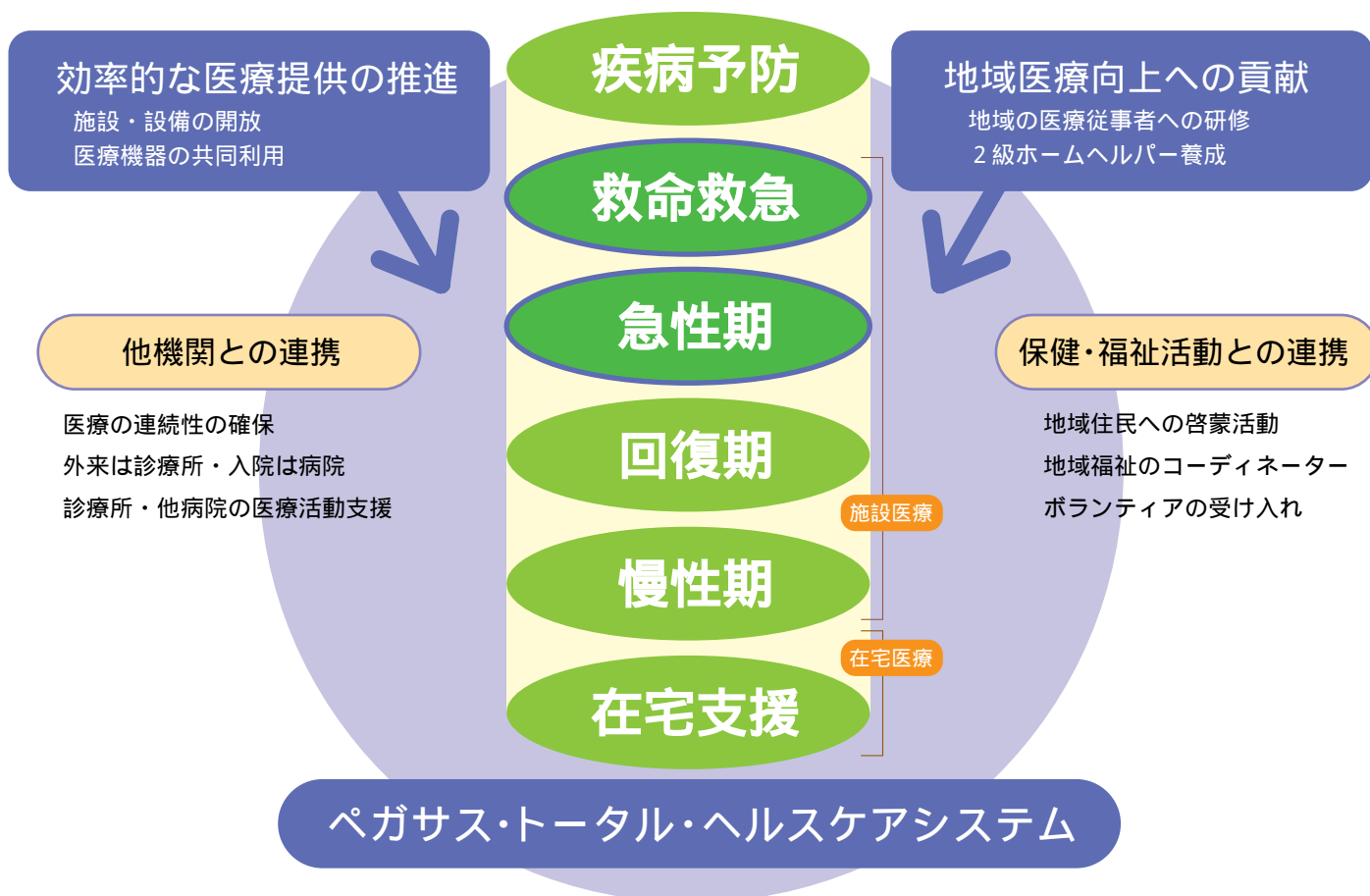
クリニカル・パス）」を作成し、より
安全、確実に、そしてより迅速に、
常に高い水準で安定した治療を行う
というものです。

また、医療を受ける患者さまにとっ
ては、複数の医療機関を利用するこ
とになります。そうした際に大切な
のは、医療の質の連続性の確保。地
域の医療ネットワークでは、それぞ
れの領域を受け持つ医療機関のすべ
てが、常に医療の質の向上に努め、
地域の患者さまが安心して医療を受
けることができる、医療水準を保証
することが重要となります。

患者さまへ、そして地域への 情報提供力が必要。

医療構造の改革を進める厚生労働省
では、「患者の視点の尊重」が重要で
あるとしてします。そこで考えられ
るのは、治療におけるインフォーム
ドコンセントの徹底、診療情報の提
供、医療に関する相談への対応体制
の整備など、患者さまへの情報提供
があります。これは、地域医療機関
との連携を進めるうえでも、重要な
取り組み。自院の持つ医療サービ
スに関する機能・人的能力、設備等
を積極的に開示し、診療所や他の病
院とともに、地域の患者さまを、共
同して診断治療にあたる体制の整備
が求められています。

ペガサスに求められる機能と役割(ペガサス・トータル・ヘルスケアシステムの構築)



急性期・回復期・在宅との連携はもちろん、地域の関連医療機関、また各種施設との連携を進めています。

在宅支援機能

訪問活動においては、看護、リハビリテーション、栄養指導を実施しています。また、介護保険制度利用のサポート、そしてサービス提供においては、ケアプランセンター、デイケアセンター、そして痴呆対応型共同生活介護事業の認定を受けた大阪

府とのモデル事業であるグループホームがあります。いずれも地域ニーズへの確実な対応に努力を重ねています。加えて、介護ニーズの高まりに対応し、グループ内においては、2級ホームヘルパー養成、派遣業務(ホームヘルパー等)を実施し、地域への浸透を図っています。

疾病予防

1) 健診室

健診もペガサスで、という地域の強

いニーズがあります。競合病院、施設との差別化を図りつつ、高度な検査技術を最大限に生かした健診事業を展開しています。

2) ペガサスセミナー

患者さまやそのご家族を対象に、疾病や在宅療養、また健康に関する講習会として馬場記念病院、馬場病院にて行っています。講師には職員はもちろん、連携する診療所の医師や行政関係者、学識経験者もお招きしています。

ペガサスが めざしてきたもの。

私たちは、高度医療の提供を通して、
地域から真の安心と信頼を寄せられる医療法人へと成長してきました。
その確かな実績をもとに、現在ではさらに、さまざまな領域との密接な関係を築き上げています。
そして今、それはひとつの形を創りつつあります。
その完成をめざし、さらなる歩みを続けます。

ペガサス・トータル・ ヘルスケアシステム 構築に向けて。

ペガサスは、医療を核として、地域社会で必要とされる、ヘルスケアに関わるさまざまな分野に積極的に翼を広げています。めざすところは、「ペガサス・トータル・ヘルスケアシステム」の構築。これは「時間軸」と「平面軸」で構成され、ペガサス各施設間、各部署間は言うまでもなく、広く地域社会との強い信頼関係をベースに創り上げつつあります。

「時間軸」を通して、すべてを サポートするサービスの提供。

「時間軸」とは、医療提供の枠組みを、時の流れに添った形で表現したものです。具体的には、＜疾病予防 救命救急 急性期 回復期 慢性期 在宅支援＞であり、包括的医療を指しています。

ペガサスは、この形をおよそ10年前からスタートさせました。その目的は、効率的な医療の提供。今後の地域医療のあり方への模索として、法人内での試みとして挑戦したものです。現在では、各医療領域における技術の高度化、施設・設備の向上により、大きな成果を生み出し、「ペガ

サス・トータル・ヘルスケアシステム」における、揺るぎない基盤を創りつつあります。

「平面軸」の充実はいコール、 地域ネットワークの構築。

一方、「平面軸」とは、ヘルスケアに関連する地域のさまざまな機関との連携によって、成り立っているものです。これは言うまでもなく、ヘルスケアに関する地域ネットワークの構築を目的としています。

医療においては、地域の診療所との病診連携を中心に、ペガサスには無い診療科においては、それを有する病院との病病連携を、また、在宅療養をサポートする施設との連携などを進めています。保健・福祉分野においては、各分野に係る職員の努力により、年月を重ねるごとに、各関連機関との絆も着実に強固なものとなってきました。

各領域の 現状。

救命救急機能

馬場記念病院では、緊急検査、手術、集中治療までの一貫した救急医療体制を整備し、24時間365日、救急患者の完全受け入れを徹底しています。

その技術力は、従来から「救急の馬場記念病院」として、地域から高い評価をいただけてきました。

急性期機能

主要診療科として脳神経外科、内科、外科、(脳)神経内科、整形外科、形成外科の6科を有し、医療の質の高度化へのたゆまぬ努力を続けています。また長年、救急医療にて培った実績をもとに、各種検査技術も充実し、診療科との速やかな連携体制も整い、高度な急性期医療の提供を続けています。

回復期機能

急性期を脱して病状が安定した患者さまを受け入れ、医師、看護師をはじめ、理学療法士、MSW（医療福祉相談員）らがチームを組み、早期のリハビリテーションを中心に、患者さまがより早く社会復帰できるようサポートしています。急性期治療と在宅・施設介護の掛け橋としての存在です。

慢性期機能

医療保険に対応する医療療養型と、介護保険に対応する介護療養型の2種類を有しています。患者さまの早期社会復帰をめざし、質の高い看護・介護を提供。法人内における急

1

>>

忘れてはならない カスタマー・ サティスファクション。

医療は、治療や検査、そして看護という「目に見えない価値」、つまり「サービス」を提供するものです。

従って、「目に見えない価値」、

換言すれば「医療の質の保証」への取り組みこそが、ペガサスの神髄と考えます。

その一方で、サービスを提供する=サービス業である以上、

私たちは「カスタマー・サティスファクション」(CS=顧客満足)

という言葉をお忘れてはなりません。

私たちの医療理念『ペガサスの約束』に示した

「すべての真ん中にいるのは患者さまです」という思い、

「すべてを支えているのは、人と、町とのきずなです」という姿勢、

それらを言葉だけではなく、体現してこそ、

顧客の心を動かすことができるものと考えます。

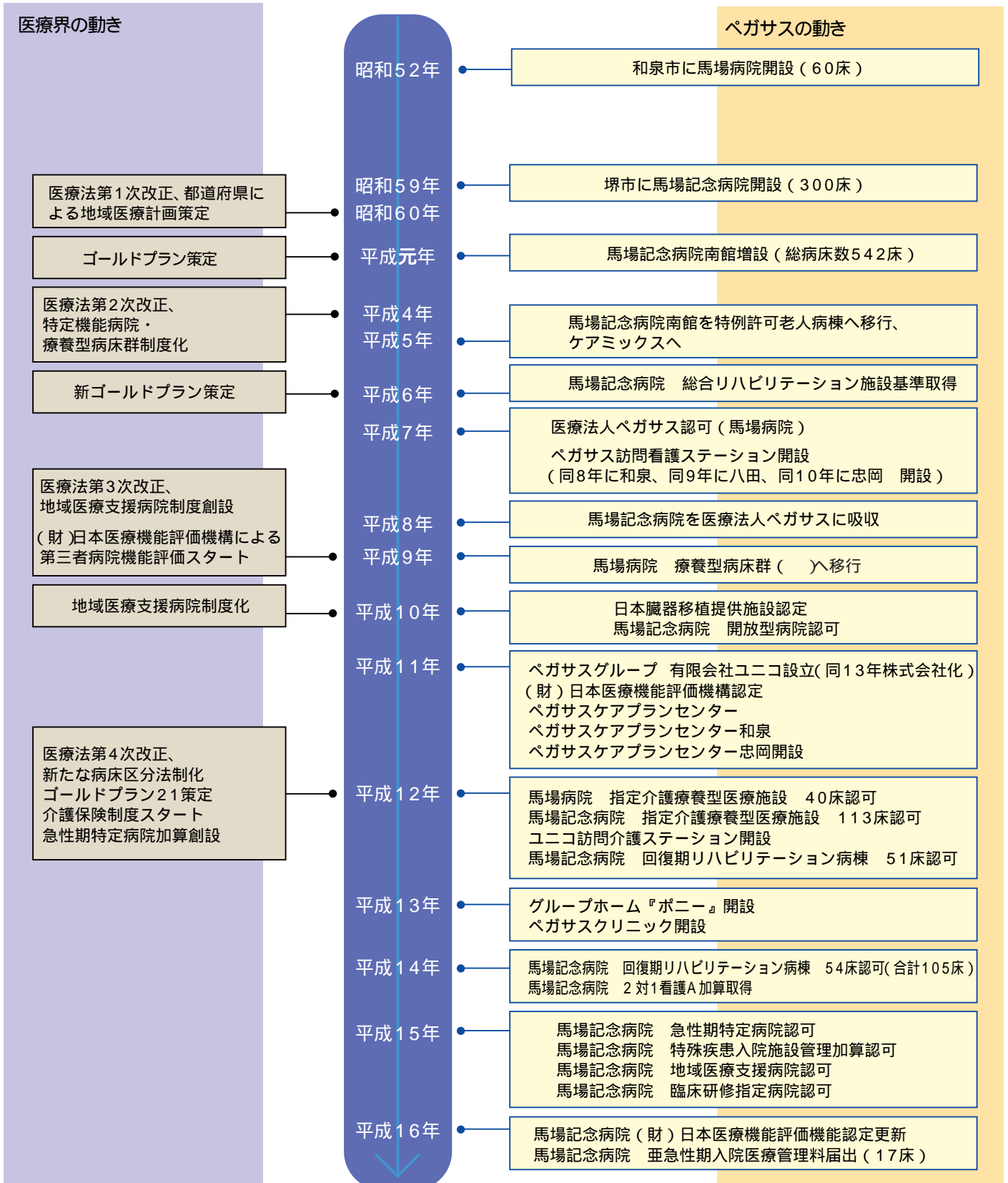
すべての第一義に、顧客の満足を置くということ。

常に顧客の側に立ち、顧客を優先すること。

その持続的な取り組みが、顧客の満足の向上に繋がります。

ペガサスの歴史は、 改革の歴史です。

「患者さま第一」「地域医療への貢献」をめざし、
私たちは、私たちにできることを
いつも考え続けてきました。
その結果がいくつもの改革となりました。
これからも私たちは、さまざまな取り組みを行い、
次代の地域医療、地域社会にふさわしい
ペガサスをめざしていきます。



患者さま

患者さまを満足させる、そのために必要なは言うまでもなく「高度な医療」です。しかし、診療領域の細分化、高度化、あるいは病院の再編、機能分化の進むなかで、ただ良い医療を提供するだけでは、本当の意味での顧客満足にはつながらない、という時代になってきました。例えば、治療におけるインフォームドコンセントを徹底し、患者さまの理解と納得そして同意に基づく診療活動の実施、効率的な医療のための標準化により、医療の質を高いレベルに保つなど、患者さまの視点で満足の行く医療を提供するという前提が必要です。

地域住民

地域完結型医療 = ヘルスケアシステムが構築されようとする今、その核となって、地域全体の医療を支え、医療と人々、医療機関と医療機関とのコーディネーターをめざすペガサスにおいては、単に自分の目の前の患者さまだけを見つめていれば良い、というものではありません。地域住民すべてのヘルスケアに関わることをしっかりと見定め、健康で安心な生活を考え続ける、その姿勢と行動が必要になります。

地域診療所の先生

診療所の医師と良好な信頼関係を結び、紹介患者を増やすことは、単に収益確保だけではなく、新しい医療の枠組みにおいて重要な要素である医療の連続性の確保という意味でもとても大切なことです。このため、診療所の先生からときには教えを請い、また共に最新の医療について学び、ペガサスグループの医療設備機器、病床を共同利用し、より良い関係を築くことが必要です。

保険者

私たちは、社会保険診療報酬支払基金、国民健康保険団体連合会等へレセプトを提出し診療報酬の支払いを受けます。場合によっては、減点され、請求どおりの診療報酬は支払われない場合があります。私たちはレセプトの提出とその支払いを通じて、私たちが本当に正しい医療を行ったか、医療機関として適切なサービスを行ったかについて保険者から厳しく問われていると考えたいものです。

2 >>

「あなた」に求められる 能力と努力。

最後に、ペガサスの職員として、これだけはどうしても身に付けていただきたいと思う能力を示しておきます。

専門職としての 能力

一つには、言うまでもなく、専門職としての知識と技術力です。つねに最新の情報を取り入れつつ、いっそうの研鑽を重ね、知識と技術力の向上を図っていただきたいと思います。また、この知識と技術力を一病院のためだけではなく、地域医療の質の向上に役立てることができるよう努力していただくことも大切だと思います。

CSの実践能力

そしてもう一つ欠かせないのは、“CS=カスタマー・サティスファクション”を日々の業務の中で実践していく能力です。カスタマーである患者さま、地域住民、診療所の先生、そして保険者に満足を提供することはもちろん、自治体や行政機関との信頼関係を築くことも、この“CS”の精神が必要でしょう。

ともすれば、専門職としての知識と技術の習得に専念するあまり、CSを見落としがちですが、この両方の能力をバランスよく兼ね備えた人材こそが、私たちペガサスの求める理想の人材です。

そして未来へ。

ペガサスの職員は、地域医療、
そして地域社会の向上に従事する者としての自覚を持ち、
常に未来を見つめて、
理想の地域医療、理想の地域社会、
そして理想のペガサスの実現をめざさなければなりません。

医療の未来

果たして医療の未来は、どうなっていくのでしょうか？
しかし、たとえ医療のカタチがどのように変わろうとも、医療人に与えられた使命は変わりません。
人の生命を救い、病を治すこと。この原点をしっかりと守りながら、
私たちは最新の医療情報、最先端の医療技術に触れ、
医療の未来を見つめ続けていきたいと思えます。

地域の未来

高齢化に伴って、人々が長い人生を、健康で楽しく、生き生きと送るために、
これからの医療、病院は何ができるのでしょうか？
さまざまな病気の恐怖から開放され、つねに安定して、
希望する医療サービスを受けることができ、
また健康を維持するための適切かつわかりやすい情報とサービスを受け続けることのできる、
そんな地域社会を築くために、できる限りのことをしていきたいと思えます。

ペガサスの未来

ペガサスの未来は、大きな可能性に満ちている、と思えます。
これまでの間、私たちは一步一步、丁寧に時間をかけて改革を続けてきました。
しかし改革に終わりはありません。
改革の成果に甘んじることなく、
より広い視野で私たちはペガサスの未来を追求していきます。